

2011年度にJCPRGから配信したCINDAファイル

CINDA Files Transmitted by JCPRG in the fiscal year 2011

北海道大学知識メディア・ラボラトリー
椿原 康介、山本 一幸

TSUBAKIHARA Kohsuke, YAMAMOTO Kazuyuki
Meme Media Laboratory, Hokkaido University

Abstract

In fiscal year 2011, there has been a submission batch from JCPRG to IAEA. The batch covers publications of Japanese journals issued in 2011. There were 31 records in the batch. This report summarizes the procedure of compilation and contents of this batch.

1 はじめに

CINDA は 1958 年に中性子入射データ文献索引カード (Card Index to Neutron DAta) として、コロンビア大学の教授である Herbert Goldstein によって考案され、現在は Card Index to Nuclear reaction DAta として、その採録対象が拡大されている。この CINDA は国際核反応データネットワーク (NRDC) の 4 つのコアセンターにより採録活動が開始され、2010 年度からは、それまで CINDA データを収集していた経済協力開発機構 (OECD) の原子核エネルギー機関 (NEA) に代わり、国際原子力機構 (IAEA) の核データ課がその作業を受け持っている。現在では、IAEA, NEA Data Bank, JCPRG, JAEA の 4 センターが国際協力体制の下に、中性子入射反応・荷電粒子入射反応・光核反応・自発核分裂を対象として、採録活動を進めている。JCPRG は、国際核反応データセンターネットワーク (NRDC) の一員として、国内で出版された荷電粒子入射核反応の文献情報を、CINDA 書式で採録・配信している。続く 2 章では、CINDA 採録の現状と本年度に採録・配信した 1 ファイル (SAP013) の概要について報告する。

2 本年度の採録・配信の概要

本年度も昨年度に引き続き以下 4 誌を常時採録対象雑誌とした：

- Progress of Theoretical Physics (以下、PTP)
- Journal of the Physical Society of Japan (以下、JPJ)

TRANS	PTP	JPJ	NST	JNRS	Lines-Tot	Lines-New	Lines-Rev
SAP007	Vol.117(1)-(6)	Vol.76(1)-(6)	Vol.44(1)-(6)	Vol.8(1)	16	16	0
SAP008	Vol.118(1)-(6)	Vol.76(7)-(12)	Vol.44(7)-(12)	Vol.8(2)	15	15	0
Sum (2007)					31	31	0
SAP009	Vol.119(1)-(6)	Vol.77(1)-(6)	Vol.45(1)-(6)	Vol.9(1)	12	12	0
SAP010	Vol.120(1)-(6)	Vol.77(7)-(12)	Vol.45(7)-(12)	Vol.9(2)	7	7	0
Sum (2008)					19	19	0
SAP011	Vol.121(1)-(6) Vol.122(1)-(6)	Vol.78(1)-(12)	Vol.46(1)-(12)	Vol.10(1)	39	39	0
Sum (2009)					39	39	0
SAP012	Vol.123(1)-(6) Vol.124(1)-(6) Vol.125(1)-(3)	Vol.79(1)-(12) Vol.80(1)-(4)	Vol.47(1)-(12) Vol.48(1)-(4)	Vol.10(2) Vol.11(1)-(2)	27	27	0
Sum (2010)					27	27	0
SAP013	Vol.125(4)-(6) Vol.126(1)-(6)	Vol.80(5)-(12)	Vol.48(5)-(12)		31	31	0
Sum (2011)					31	31	0

Lines-Tot : 全レコード数
Lines-New : 新規レコード数
Lines-Rev : 修正レコード数
Sum : その年度に送られたファイルに関する和

表 1: 2007 年 4 月～2012 年 3 月に調査した出版物の範囲と送信統計

- Journal of Nuclear Science and Technology (以下、NST)
- Journal of Nuclear and Radiochemical Sciences (以下、JNRS)

基本的な方針を先に示す。年に 2 回 (各雑誌の 6 月号と 12 月号が出版された後) の採録時期に、二人の採録者が情報を抽出して採録用のファイルを作成する。その際、IAEA の Web ページ上 [1] に示されているフォーマットに則って採録を行なうことに留意する。その後、シート [2] を交換して互いにチェックと修正を行う。これらの作業の後、コーディングシート of 情報をファイル化して、IAEA の担当者に送信する。詳しい CINDA データの書式や採録対象の物理量などについては、昨年度の CINDA 採録に関する年次報告記事 [3] を参考に行う。

2007 年 4 月～2012 年 3 月に調査した出版物と送信統計を、表 1 に示す。このうち、今年度配信したファイルは SAP013 であり、2012 年 5 月～12 月に出版された雑誌全 25 冊から採録を行った。先に採録対象とした学術雑誌のうち、JNRS は新刊が確認出来なかったため、採録は行なわなかった。今回は PTP、JPJ、NST の三誌 25 冊から 12 本の論文を CINDA 採録対象論文とし、その中から断面積、微分断面積、二重微分断面積などを中心に、計 31 件の CINDA データを作成した。また、昨年度採録作業を行った SAP012 だが、IAEA 核データ課へ担当が変わった移行期間であった事に加え、ファイル自体が完全にフォーマットにそったものではなく、データベースへの登録が見送られていた。この件については、IAEA 核データ課の大塚氏の協力もあり、修正が完了し、IAEA に送信された。今後は採録内容・フォーマット共に瑕疵のないファイル作成を心がけたい。次年度からは採録対象としている JNRS、及び NST の刊行の遅延や発行形態の変更などに伴い、採録対象などに若干の変更が加えられる可能性がある。また、CINDA 採録自体も READER 形式の採録・配信を終了し、2012 年度からフリーテキストでの報告へ変更することとなったが、CINDA 採録対象として割り当てられていた論文雑誌の検索自体は継続して行なう予定である。

3 終わりに

以上に記したように、今年度も国内4雑誌に含まれる核反応関連文献の採録を実施し、CINDA形式として1ファイルに取りまとめてIAEAの核データ課に送付した。その結果、刊行された25冊から12本の論文を採録対象とし、主に反応段面積に関係する31件のCINDAデータを作成し、配信した。昨年度に配信したSAP012については、フォーマットの遵守がなされていなかったとの指摘があったため、今回、その修正をIAEAの大塚氏の協力のもと、行った。また、先のNRDC会議で策定された方針に従い、次年度以降はCINDA採録を現状のREADER形式から、フリーテキストでの報告へと移行する予定となっている。CINDAで担当してきた論文雑誌を定期的に調べ、IAEA核データ課に報告する事で、今までのCINDA活動の代替とする予定である。

参考文献

- [1] H. Henriksson, CINDA Compilers manual, [NEA/DB/DOC 3 \(2008\)](#)
- [2] 大塚直彦, 「[CINDA 採録用紙](#)」
- [3] 椿原康介、牧永あや乃、古立直也, 「2010年度にJCPRGから送信されたCINDAファイル」, [荷電粒子核反応データファイル年次報告 No.24, 75 \(2011\)](#); 及びその中で紹介されたマニュアルに関する参考文献